



# 診察室の午後

白浜はまゆう病院  
泌尿器科部長 川嶋 秀紀

毎月、第4水曜日の朝8時半すぎに、地元のFMラジオ局の健康情報番組に出演させていただいている。

スポンサーは私の勤務している病院で、毎週水曜日に3名の医師が交代で出演する。病院の総務の職員にラジオ局まで送迎してもらい、短い生放送が終わると急いで病院に戻り外来診療を始める。

別のことをしながら何となく放送を聞いている人の頭の中にも、すーっと入ってきていくような、分かりやすく興味をひくお話でなければいけない。ラジオで話をするのは、学会発表や学生への講義よりはるかに

出演でとても緊張した。私は、あがり症で、人前で話するのが苦手だ。大勢の前に出るとドキドキして、具合が悪いことに声がかすれてくることもある。そのため原稿を作成し、パーソナリティーの方にもその原稿を送るとともに、自分でも音読して練習をする。ありがたいことに、こちらのラジオ局では、お互い手をしてくれるパーソナリ

ティーは有名なアナウンサーで、番組のスタートはパーソナリティーとアシスタントの女性の弾むような明るいあいさつの声で始まる。生放送ではなく、あらかじめ作った原稿に沿って月曜日から金曜日まで5日分の放送の収録を1回で済ませた。初めてのマスキミ

## <47> ラジオ出演

ティーは親しみやすく、あいの手や質問も上手に入れてくれるので気持ちが少し楽になる。病院への帰途では、一緒に放送を聞いてくれた総務の職員に分かりやすかったか尋ねて次回への参考にしている。

今、健康番組や健康にかかわるニュースはテレビで

も多い。私もなるべく見るようにしてこれらの情報を患者さんと共有しているつもりだ。ある番組で、前立腺がんと診断された方が医師の勧めるままに手術を受けたが、術後の合併症である尿漏れに悩み、手術前にもっと情報を得て納得した上で治療を受ければよかったと語っていたことが心に残った。いろいろな治療法を理解した上で、手術以外に放射線治療を選ぶことができたかもしれないと思った。

医療は公共のものである。できるだけ多くの方々に、病気やその治療や医療制度について正しい知識や認識を持ってほしいと思う。そのことが、回り回って私たち医療に従事するものに正しい方向性を示し、私たちの医療を支える力になると信じている。